

「クルード」

<内容>

プレイ時間 30分前後

プレイヤー 2～6人（理想的には、4～6人）

<概要>

ある、推理ミステリーを楽しむ集いの、夜のことだった。

この推理パーティの主催者、ミスター・ブラックの死体が発見された！

その当日、館にいた人間は、まじめな文学青年プラム（紫）、セクシーな秘書ホワイト（白）、情熱的な若き女優スカーレット（赤）、のんきな音楽家のグリーン（緑）、逞しい幼なじみのマスタード（黄）、美しい妻ピーコック（青）の6人。

彼ら6人はこの殺人事件の容疑者である。

だが、筋金入りのミステリーファンである6人は、にやりと微笑んだ。

「私たちが、警察がくるまでに、この殺人事件の推理をしてしまわない？」

<スタート準備>

- 1) 6人の容疑者コマの中から、ひとりの容疑者を、それぞれのプレイヤーが選ぶ。
- 2) 残りの容疑者コマと、凶器のコマは、中央に置く。
- 3) 『容疑者』カード、『凶器』カード、『殺人現場』カードを分けて、それぞれをよく混ぜて、一枚ずつ選び、中を見ないまま、「真相」の袋にしまう。

☆この隠された3つの「事件の真相」をあてるゲームである。

- 4) 残った『容疑者』『凶器』『殺人現場』カードは、全てをよく混ぜて、全員が同じ枚数になるだけ配る。
- 5) あまったカードは、表向きにして、ゲーム盤の横にきれいにならべる。
- 6) 各プレイヤーは、配られた自分のカードの内容を確認し、それぞれ、他人には見えな

いように、自分の「推理メモ」に、情報を書き込む。

<プレイの仕方>

1) サイコロをふって、大きな目が出たプレイヤーから始める。あとは時計まわりでプレイする。

2) スタート位置は中央の部屋である。サイコロをふって、自分の容疑者コマを動かし、ボード上の各「部屋」をめざす。

※「部屋」には、ぴったりの数でなくても、止まれる。

3) 「部屋」に入ったプレイヤーは、その場で「推理」を披露しなければならない。

『容疑者』『凶器』『殺人現場』の3つを、口に出すのである。

※ただし、『殺人現場』は、「この部屋だ」としか推理することができない。

※推理された『容疑者』は、呼び出されて、その「部屋」に移動する。

(プレイヤーコマでも、プレイヤーのいないコマでも、同様にする)

※推理された『凶器』は、中央から持ち出されて、その「部屋」に移動させる。

5) 「推理」を披露したプレイヤーの、左隣のプレイヤーは、推理された『容疑者』『凶器』『殺人現場』のカードのうち、1枚でももっていたら、そっと、そのカードを「推理」をしたプレイヤーに見せなければならない。見せたカードは、他のプレイヤーには見えないように注意しながら自分の手札にもどす。

※左隣のプレイヤーが、推理されたカードを2枚以上持っていた場合は、どれを見せるかは左隣のプレイヤーの自由である。

※左隣のプレイヤーが1枚も持っていなかった場合は、さらに左隣のプレイヤーが、「推理」を披露したプレイヤーに、推理と合致した手持ちのカードを1枚、見せる。そのプレイヤーも持っていなければ、さらに左隣のひとが、…と、一周するまで、それをおこなう。

※一周して、誰も持っていなかった場合は、袋のなかの3つの「真相」のカードであると推理できる。(自分の手持ちのカードを「推理」してみせた場合はのぞく)

6) 「推理」をして得た情報を、プレイヤーは自分のメモに書き込み、推理に使った『凶器』コマを中央の部屋に戻す。『容疑者』コマは、戻さない。そして、次は左隣のプレイヤーの手番となる。

7) 「推理」をくりかえし、袋のなかの3つの「真相」が分かったら、中央の部屋へコマをすすめる。

8) 中央の部屋に入ったプレイヤーは、自分の推理した3つの「事件の真相」（袋の中にかくされたカード3枚）を宣言することができる。

9) 「真相の推理」を宣言したプレイヤーは、「真相」の袋の中を見ることができる。

合っていたら勝利！

まちがっていたら、敗北を宣言し、そのゲームには二度と「推理」で参加することはできない。

※他プレイヤーの「推理」に対して、手持ちのカードを見せることは、続ける。

<プレイするポイント>

☆プレイヤー容疑者コマは、「部屋」で「推理」に名前を出されてしまったら、ボード上のどこにいても、その「部屋」に移動しなければならない。そして、自分の手番が来たときに、その「部屋」からサイコロをふって、出ていかなければならない。

(つまり、他人の足をひっぱるために、「推理」に名前を出して、呼びつけることができる)

☆自分もっている『容疑者』『凶器』『殺人現場』カードを、自分の「推理」で口に出してもかまわない。

(つまり、自分もっているカードから2枚を「推理」に出せば、のこりの1枚のカードがどこにあるか、一周して情報を集めることができる)

☆その「部屋」の『殺人現場』カードを、左隣のひとに持っていることが分かったら、その部屋で推理をくりかえしても、むだである。

(その『殺人現場』カードを出しつづけられるだけだろう)

☆「部屋」には、ずっと続けてもかまわない。サイコロをふったあとで、その「部屋」から動かないことに決めても、かまわない。

(終盤、ひとが集まる「部屋」は、『殺人現場』である可能性が高い)

☆3つの「事件の真相」が分かってても、口に出さないほうがいい。「事件の真相」を披露するためには、中央の部屋に行かなければならない。あなたが中央の部屋をめざしていることに気づいたら、他プレイヤーはあなたを『容疑者』に出して「部屋」に呼びつけて、それを邪魔するだろう。